

一方、スムジグチより北側で、トゥールグチまでの海域では、栄養物質の濃度は低くなるものの、外海との海水の交流が活発であり、サンゴ類の分布域は岸寄りまで広がって、被度も高い。海藻類はリーフ付近と岸寄りに局所的に分布する。栄養物質の濃度が比較的高い轟川河口沖合いでは、サンゴ類と着生基盤を競合する海藻類が分布し、サンゴ類の被度は低くなる。海草類は砂質底を基盤とし、サンゴ類や海藻類と生息場が異なることから、栄養物質濃度に関わらず陸に沿って帯状に分布しており、北側で比較的被度が高い。

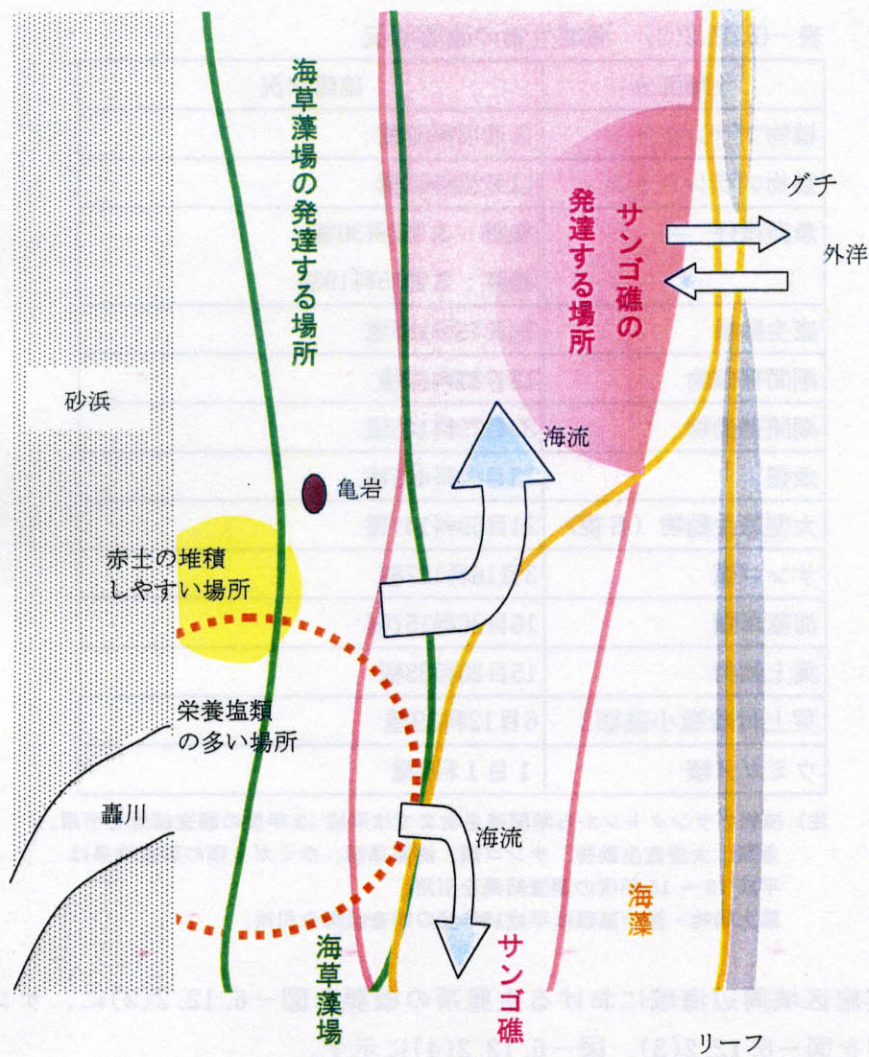


図-6.12.2(2) 事業実施区域周辺海域における生態系の概要